

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成24年1月12日（木）10:00～10:20
- 場 所 合同庁舎4号館第3特別会議室
- 出席者 大串大臣政務官、相澤議員、奥村議員、白石議員、大西議員、泉統括官、
梶田審議官、吉川審議官、大石審議官
- 議事概要

議題1. 平成24年度科学技術関係予算案の概要について

<鈴木参事官説明>

- 奥村議員 23年度の特会、補正部分を除いた当初予算と来年度予算案の対比で考えると、大きな変化分は環境省の部分ですか。予算額の内訳（内局、国立大・研究独法運営費交付金）を示す円グラフがありますけれども、この集計での変化は何かありますか。研究独法の運営費交付金については、組織問題が検討されていますけれども、ここのあたりの増減というのはどうなっているのか、何かわかったら教えていただきたい。
- 鈴木参事官 機関別でいきますと23年度の数字であります。内局の部分、今は1兆2,782億になっておりますけれども、23年度予算は1兆2,530億円という形になっております。
下の緑の部分ですけれども、これが23年度の数字は9,858億円という数字になっております。大学等というところの運営費交付金の部分ですけれども、これは1兆1,105億円という数字になっております。
府省別の割合はほぼ前年と同じでございますけれども、大きなところで申しますと文部科学省は23年度67.1%、経済産業省は16.1%、厚生労働省は4.1%、そういった形の数字になっております。
- 奥村議員 ということは、23年度予算と比べてあまり大きな変化はないと、そういう見方でよろしいですか。
- 鈴木参事官 シェアなどを見ますとそういう形かと思えます。
- 大串政務官 私も9月にこの職について、予算要求ができ上がってきているところからこの過程に携わってきたわけですがけれども、今、奥村先生から話のあったことはもともとこの総合科学技術会議のファンクションであるところのメリハリ、重点化、これをきかせていくのであれば各省のこのバランスも自ずと変わっていくというのが当然だろうと。それをリードできるのがこの総合科学技術会議のファンクションだろうと。こういう問題意識に基づいてのご発言だろうと思います。まさに私もそう思いますので、まだ政府内で出来ていることと、ある意味世の中も含めて予算の重点化、メリハリをという声の感覚の割にはかなりまだ差があるというのが現状ではないかというように思います。
今回、予算編成をやってみて、アクションプラン、施策パッケージ、それからそれ以外の予算とあるわけですがけれども、アクションプランに関しては、アクションプランに該当するもの、

しないものというものをきちんと分けて、アクションプランに該当するものの中でも意見をあえて付さなければならないようなものもあるという区分もつけて、それは財務当局とも話をしながら、その中でもメリハリがつけられるようにしていったという取組もしたつもりであります。来年度に向けて私自身の問題意識としてももう少し前に進めていくような形にしていけないと、世の中とのズレがあるなという感じが非常にします。そこはやはり予算要求が出てくる前の段階も含めた取組、もともとこの総合科学技術会議において予算要求段階の前からということで強めてきたわけですが、さらにそれを強めていかなければいけないという感じがしています。そこはまたいろいろ先生方ともご議論させていただいて、さらなる工夫をさせていただきたいと思っています。

それともう1つが、奥村先生からご質問がありました、各機関、独法、あるいは大学、それから今回で言えばアクションプラン、施策パッケージ以外の予算にもありますけれども、こういったところに関しては意見を付していくということで私たちは総合科学技術会議として対応しているわけですが、ここに関してももう幾分の取組はできないかというのはやはり大きな問題として残るだろうなと思います。ここもいろいろな知恵を出していかなければいけない。機関の予算ですから、機関の予算はある意味、根っこ部分になっているところもありますからそこをいじりにくいという側面があるにせよ、何がしかのやはり工夫が必要だなという感じがしております。

それから、もう1つが重複排除、それからメリハリに関して、いろいろな取組、アクションプランに関してやっていただきました。予算要求前にもアクションプランをつくる段階においていろいろな各省との連携をやっていただいたわけです。例えば、9月、10月の会議の冒頭でも、洋上風力の研究開発に関していろいろな意見、これは各省でどういう仕切りになっているのかという意見が出ましたけれども、これも事前にいろいろな仕切りをしていただいているという流れがありまして、これをもう少し世の中の的にもきちんとこういう仕切りになっているということをお願いしていくことも必要かなと思いました。予算編成過程の最後に至るまでやはり洋上風力に関して、あるいはそれ以外のことに関してはどういう役割分担になっているのかというような質問を受けることが多かったものですから、総合科学技術会議としてのアピールももうちょっと考えていかなければいけないと思った次第でございます。

いずれにしても予算額的には復興特会も含めるとある一定の額が確保できて、いわゆる基金に関して種目の拡大とか、助成ベースではありますけれども、予算の拡大ができたのでそこはそこで成果が上がったのではないかと思います、内容の充実に関してまた知恵をつくっていかなければならないと思った次第でございますので、またそこは力を貸していただければと思います。

○相澤議員 総合科学技術会議として、問題意識をもっていた点について、今、適確にご指摘いただきました。ぜひ今後、24年度についてもアクションプランとそれから施策パッケージについての内容を十分に吟味する段階にこれから入っていきますので、そういうことも受けて来年度どうするかというようなことを改めて議論させていただきたいと思います。

それでは、本日の政務三役と有識者議員との会合を終了させていただきます。

(以上)